シリーズ 探訪 わが町文化財 その123

明恵上人生誕地　吉原遺跡

明恵上人は、寛喜4年（1232年）に亡くなりますが、その後、弟子たちを中心として、数十年にわたり上人を顕彰する事業が行われました。特に一番弟子の喜海は、上人の故郷において、その功績を後世に伝える活動を行っています。

その一つが、紀州八所遺跡の選定と卒塔婆の建立です。喜海は、上人の三回忌を機に修行地と生誕地を加えた8カ所の地点を遺跡に定め、卒塔婆を建てることを発願しました。生前から上人の支援者であった湯浅氏の協力を得て、上人が亡くなった4年後の嘉禎2年（1236年）に木製卒塔婆の建立が実現します。その後、卒塔婆が傷んだため、康永3年（1344年）には石製に作り替えられました。これが現在に残る卒塔婆であり、6カ所の遺跡に当時のものが残されています。

紀州八所遺跡の中で、上人の生誕地を示しているのが歓喜寺の近くにある吉原遺跡で、幼少期を過ごした場所です。上人の母は懐妊したときから、将来は京都神護寺の僧にすることを願っており、神護寺本尊の薬師如来にあやかり、幼名を薬師と名付けたとされます。母の影響によるものか、上人は幼少の頃から仏法にその身をささげることを決心していたようで、それを示す次のような逸話が伝記に書かれています。「上人が4歳のとき、父親が烏帽子を着せると、とてもよく似合ったので、ゆくゆくは武士として平重盛の家来に推挙しようと言うと、上人は容姿がきれいなために僧になれないならと、縁側から飛び降りたり、火箸を近づけて顔を傷つけようとした」と、江戸時代の「紀伊国名所図会」には、この様子が挿絵で紹介されています。

上人が8歳のとき、1月に母が亡くなり、続いて9月には父が上総国（現在の千葉県）で源氏に討たれます。父・重国の戦死は、源頼朝の挙兵時期とも重なることから、平家方の東国武士を統制するために、最前線で戦う役割を担っていたと考えられます。幼少期の過酷な体験は、その後の人生に大きな影響を与えたことでしょう。

吉原遺跡

紀伊国名所図会

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 2018-4
●有田川町役場企画調整課　TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail　b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページ URL　https://www.town.aridagawa.lg.jp